

いそうろう

居候

1, ジョロウグモの網

6月に生まれた子グモも、秋になると直径1m近い立派な大きな網を張っている。大型で目立つ色彩から女郎あるいは上臈と呼ばれますが、これは全て雌です。網はちょっと変わっていて、渦巻き型の円網ではなく、上に開いた馬蹄型に並行して前後に不規則な補助網がついて、中心の網をぴんと張るしくみになっています。

網に近づいてよく見ると、中心にいるでっぴり大きなクモの他、網の端の方に1cmにも満たないようなほっそりして脚ばかり

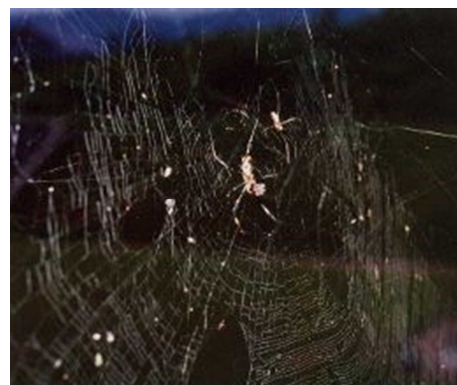


ジョロウグモの雌雄

り目立つクモが1~数匹

います。これが雄です。雄の交尾行動は雌に食べられないよう、雌が活発に動けない脱皮直後や食事に行います。雄の餌は雌が相手にしないおこぼれの小昆虫です。

自分では網を張らないで、他のクモの網の隅でおこぼれをもらう名前通りのイソウロウグモという小型のクモや、小さなアシナガクモが枠糸の間に小さな網を張るなど、クモの世界もいろいろである。



ジョウロウグモの雌の巣

2, ウメノキゴケ類(ウメノキゴケ、マツゲゴケ、ハクテングケなど)

打吹山の樹木の幹には様々な付着生物がいます。この中の地衣類は菌類の菌糸の間に藻類が共生しているものです。菌類が霧などから水分や養分をとり、藻類が光合成して炭水化物を作り、提供しています。そのため、生活の場が地面や水中である必要でなく、岩肌や樹幹など競争相手が少なく、光を十分得ることのできる場所で生活することが可能になりました。乾燥しても水分があれば元に戻ることができます。大きな植物を利用した上手な生き方です。

樹幹につく葉状地衣類のウメノキゴケ類はよく目立ちます。体の一部がちぎれて飛んで繁殖するため、付着しやすい樹皮で日当たりも重要です。サクラにはよく付着していますが、年数が必要です。暗いシイ林には見られず、明るい頂上のイヌシデの幹にも多く付いています。樹種、樹齢、照度など必要な条件を観察してみましょう。



左：ウメノキゴケ



右：マツゲゴケ マツゲゴケの縁の拡大



ハクテングケ

弱点は、必要な水分や養分を空中の水分や無機物から得ているため、排気ガスに弱いことです。ウメノキゴケは、年平均の二酸化硫黄濃度が0.020ppm以上の環境では生育できないといわれています。

(倉吉博物館専門委員 國本洸紀 2012)